

「ポストコロナ」時代  
におけるデジタル活用  
に関する懇談会

ワーキンググループ  
事業者ヒアリング資料

2021年3月19日

資料3

FUJITSU

shaping tomorrow with you

# パンデミックのインパクトと デジタルトランスフォーメーション

富士通株式会社

グローバルマーケティング本部

チーフストラテジスト

高重吉邦

# 自己紹介



1984年富士通入社、通信機器などの海外事業に従事。グローバル市場へのマーケティングや新規事業開拓、アルカテルとの合弁事業やシスコとの戦略提携をドライブ。

2012年より、未来ビジョンとソートリーダーシップを担当。実現すべき未来の社会ビジョンとテクノロジーを活用したイノベーションについての富士通の考えをまとめた「Fujitsu Technology and Service Vision」の制作と発信をリード。

国内外でイノベーションやデジタルトランスフォーメーションについての講演やコラボレーションを行う。

東京大学法学部卒、米コーネル大学MBA。



# Fujitsu Technology and Service Vision



お客様と共にどのような未来を共創したいかを伝える

- 2013年に初版をローンチ、毎年改版 <https://www.fujitsu.com/jp/vision/>



# Fujitsu Technology and Service Vision



刻々と変化するマクロ要因やテクノロジーにもとづき  
アップデート・進化



# お話ししたいこと

- デジタルトランスフォーメーションの状況
- パンデミックのインパクト考察
- 富士通のアプローチ
- デジタル化を阻む日本の課題考察 (企業側と受容者側)

# デジタルトランスフォーメーションの状況



富士通のグローバル調査 2020

デジタル化があらゆる業界で進行 (9カ国平均、ネット専門を除く企業)

83%

検討着手

70%

実践中

35%

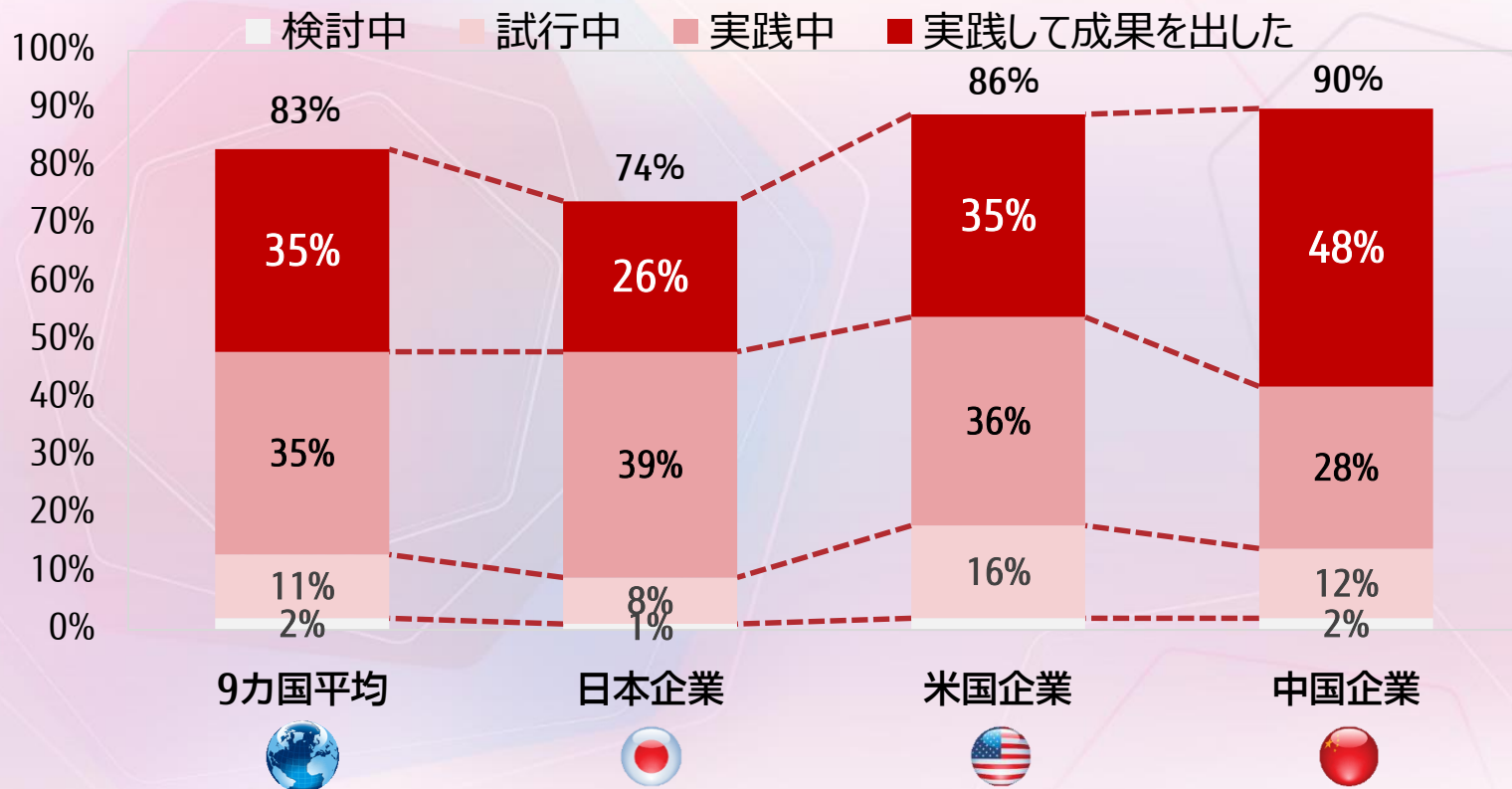
成果を実現

<https://www.fujitsu.com/jp/vision/insights/survey4/index.html>

2020年2月 富士通調査

9カ国 (日、米、中、シンガポール、豪、英、仏、独、西)のビジネスリーダー対象

# 日本 vs 米国・中国





# パンデミックのインパクト考察

## 1. デジタルがデフォルトへ

- オンラインでの仕事/消費/教育/医療が拡大 (デジタルがリアルを包摂: 元のままには戻らない)
- デジタル適応力が企業/国家の競争力を決める (新しい筋肉の使い方、デジタル人材育成)
- 資源/エネルギーを使ってモノを大量供給する産業化時代の終焉
- 人・企業のエコシステムがデータを活用して価値を創出
- データ/AI/ロボットによる自律/自動化の加速
- リアルな体験のプレミアムな価値を見直す必要

## 3. ビジネスと社会がオーバーラップ

- 企業は従業員/家族の健康、コミュニティへの貢献の重要性を再認識
- 株主第一主義からステークホルダー資本主義への移行を加速
- 経営層の92%が社会への価値貢献が中長期のビジネス持続可能性に重要と回答(2020年2月 富士通9カ国調査)
- 企業の社会における存在意義「パーパス」の重要性高まる
- 少子高齢化に加え、気候変動/エネルギーが最優先課題へ

## 2. 不確実性への対応が最優先課題へ

- パンデミック等のリニアな予測で対応できない事態への対応
- グローバル・サプライチェーンの脆弱性
- 生産の効率性から、不確実性へのレジリエンスへ (アジリティが組織の最重要課題)
- 過去にとらわれずリアルタイム・データを活用して変化に対応できるデータドリブン経営

## 4. ボーダーレス社会へ

- 在宅勤務の拡大、パンデミック終息後もハイブリッド型勤務形態が主流へ
- しかし、在宅勤務者 米国70%に対し、日本は25% (IT環境、業務プロセス、マインドセット・文化の課題)
- 東京の人口が7か月連続減少、都市集中型社会から職住近接の分散型社会へのシフト



その他、地政学的リスクの高まり(米中摩擦)、格差の拡大など、世界の分断が強まる



# 富士通のアプローチ

## パーパス・ドリブンなデジタルトランスフォーメーション

■ パーパスにもとづき、ビジネス・社会バリューの創出、社内の変革を推進

<b>パーパス</b>	イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていく	<b>ビジネス・社会バリュー</b>		
<b>重点</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 社会課題(イシュー)解決</li><li>■ 顧客ビジネスのデジタルトランスフォーメーションのパートナー</li><li>■ 顧客事業の安定化への貢献</li><li>■ グローバルビジネス再構築</li></ul>	 <p>パーソナライズされたエクスペリエンスを</p>	 <p>ものづくりに革新を</p>	 <p>健康と暮らしに豊かさを(ウェルビーイング)</p>
<b>自らの変革</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ データドリブン経営の強化 (One ERP)</li><li>■ DX人材への変化 (働き方変革: Work Life Shift)</li><li>■ 全員参加型の社内DX (フジトラ)</li></ul>	 <p>安全安心なモビリティ社会を</p>	 <p>金融サービスに安心と利便性を</p>	 <p>経営に柔軟性とスピードを</p>

# 信頼されるビジネスへの デジタルトランスフォーメーション

## 3つのステップ

- ステークホルダーからの信頼を得られなければ淘汰されていく
- 共創と同時に、エコシステム間の競争構造

不確実性への  
レジリエンス  
(変化対応力)



既存ビジネスのDX  
(社会への価値強化)



エコシステム型ビジネスへの進化  
(社会的価値の共創)



# マクロ社会課題とテクノロジーを掛け合わせる

FUJITSU

ビジネス成長の機会

## 少子高齢化

×

デジタルツイン、AI、IoT、ロボット、5G  
量子コンピューティング、スパコンなど

自動化による生産性向上  
創薬や個別医療による健康寿命延伸

- ・製造デジタルツインとクロスボーダーエコシステム形成
- ・量子コンピューティング技術による創薬
- ・医療ビッグデータと説明可能なAIによるゲノム医療や個別医療

## 都市の持続可能性

×

デジタルツイン、AI、IoT、5G  
量子コンピューティング、スパコンなど

モビリティ最適化  
災害レジリエンス

- ・量子コンピューティング技術による物流最適化とCO2排出削減
- ・富岳による津波シミュレーション
- ・リアルタイムのセンサーデータを活用した災害レスポンス

## 環境負荷

×

デジタルツイン、AI、IoT、分散台帳  
量子コンピューティング、スパコンなど

End-to-endトレーサビリティ  
再生型ビジネス・社会

- ・ブロックチェーンによるエコシステム全体のトレーサビリティ（産業廃棄物、食品廃棄・ロス、CO2排出）
- ・AIによる航路最適化・燃料消費削減
- ・クラウドのカーボンニュートラル化



# コアテクノロジー

信頼を生み出すテクノロジーを開発、  
組み合わせてサービスとして提供

## コンピューティング

量子コンピューティング、スパコン

## AI

トラステッドAI (説明可能)

## 5G

Local 5G、5Gインフラ

## サイバーセキュリティ

マルチ生体認証、ゼロトラスト

## クラウド

ハイブリッドIT

## データ

ブロックチェーン、Trust as a Service

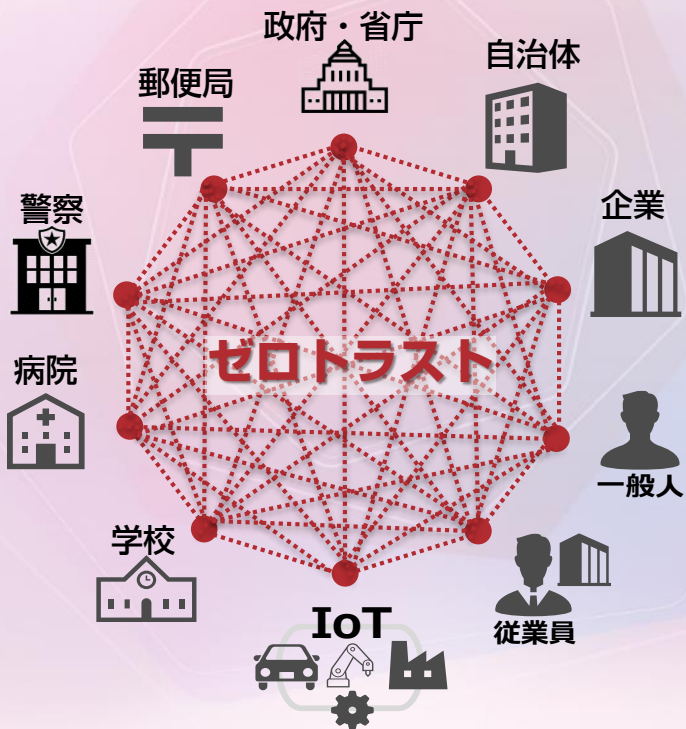
## IoT

デジタルツイン、エッジ



# デジタルトラストの確立に向けて

人・組織・モノのデータのトラストを担保、安心安全なフローを実現



# 企業・組織のデジタル化の課題

## デジタルマッスル

### リーダーシップ

CEOの優先課題としてデジタル  
トランスフォーメーションに取り組む

### 人材のエンパワーメント

必要なスキルを持つ人材を育成し、  
成長の機会を与える

### アジャイルな文化

イノベーションに挑戦し、  
変化に対応する文化の醸成

### エコシステム

パートナーと共に、トラステッドな  
エコシステムを構築

### データからの価値創出

セキュリティを確保し、信頼性のある  
データからビジネス成果を生み出す

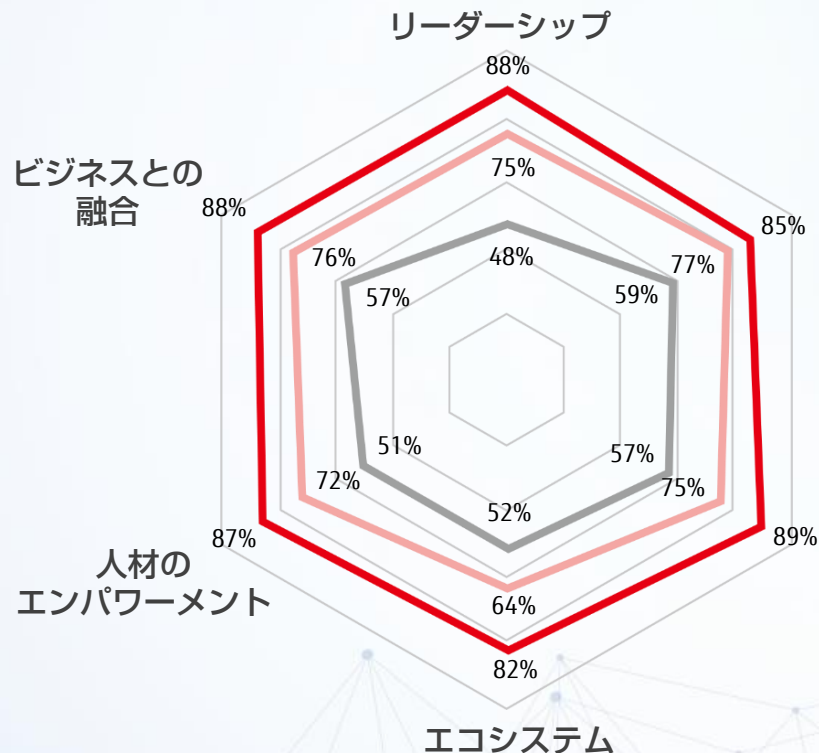
### ビジネスとの融合

デジタル技術をビジネスプロセスに  
組み込み駆動する



# 企業・組織のデジタル化の課題

## デジタルマッスル



データからの  
価値創出

アジャイルな  
文化

- 実践し結果を得た (n=367)
- 実践しているが、結果はまだ得ていない / 試行、実証中もしくは企画、検討中 (n=411)
- 検討、試行、実践なし (n=122)



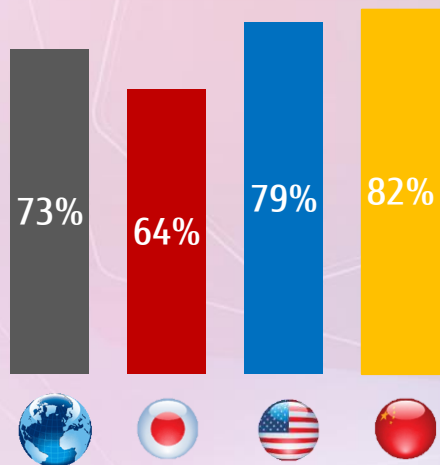


# 日本 vs 米国・中国

世界平均 vs. 日本企業、米国企業、中国企業 (ネット専業を除く企業)

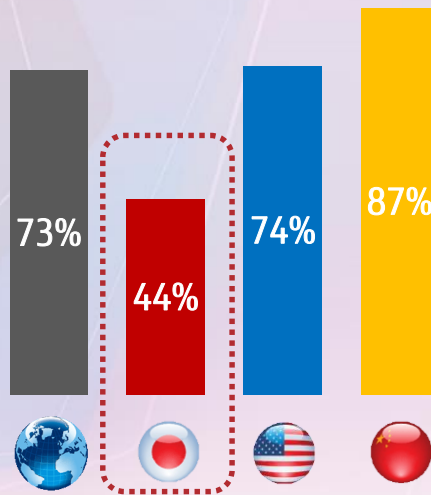
## リーダーシップ

CEOの優先課題として全社的なDXに取り組む



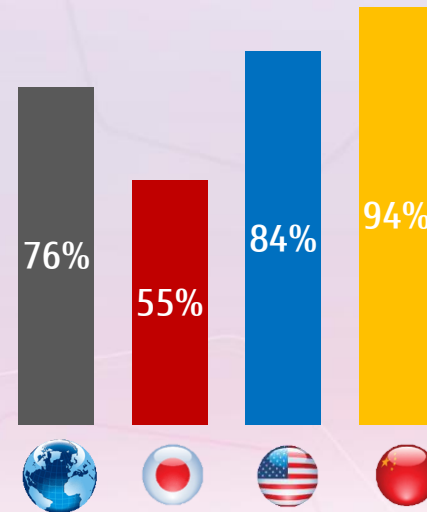
## 人材のエンパワーメント

DXに必要な人材を有している



## アジャイルな文化

組織の高いアジリティを実現

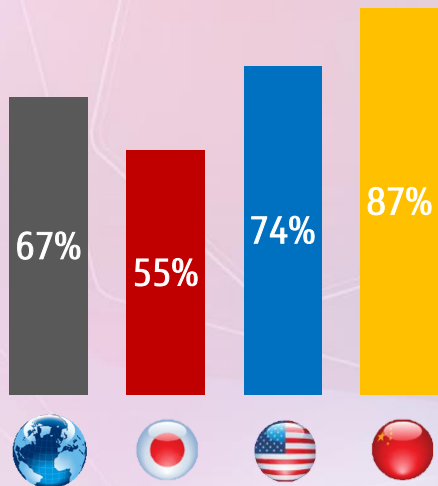


# 日本 vs 米国・中国

世界平均 vs. 日本企業、米国企業、中国企業 (ネット専業を除く企業)

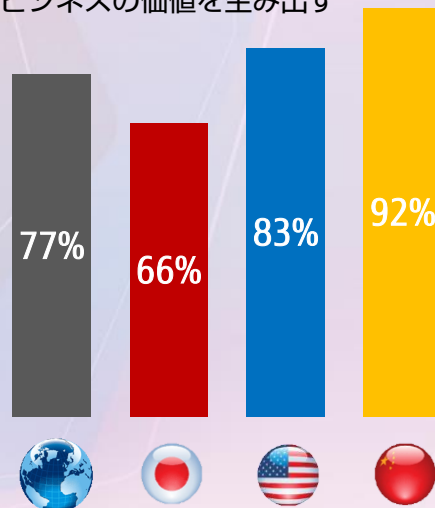
## エコシステム

DXに必要なオープンなエコシステムを構築



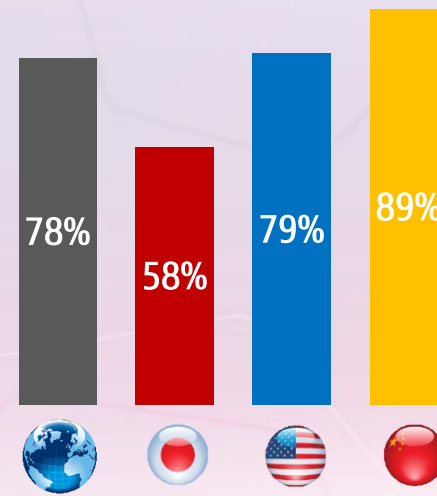
## データからの価値創出

セキュリティを確保し、データからビジネスの価値を生み出す



## ビジネスとの融合

DXによる業務プロセス変革を実行

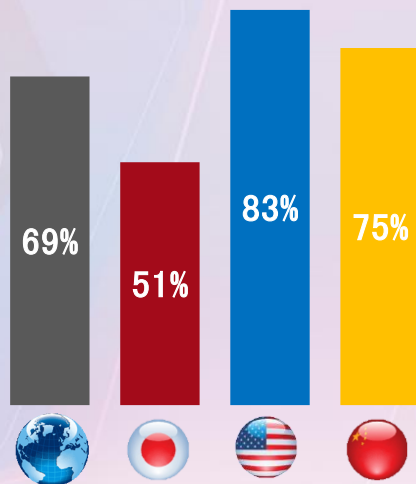


# デジタル受容性の課題

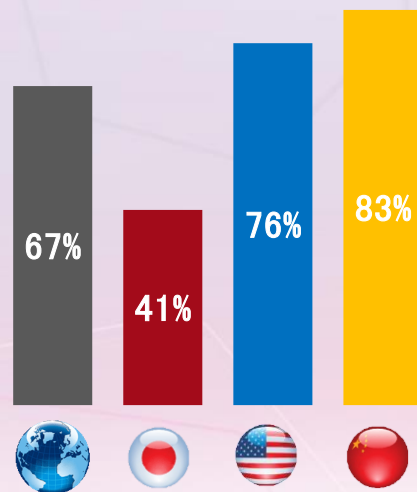
## 日本人は個人データ・AIに関する懸念が大きい

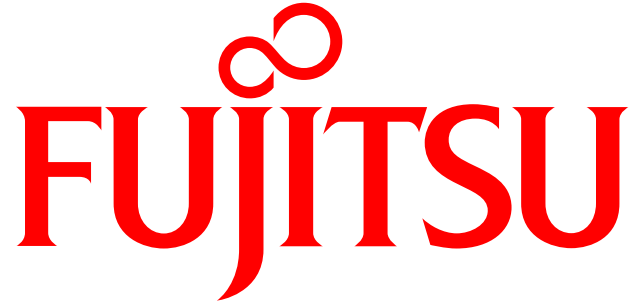
- デジタルへの行動変容を加速するには、サービス提供者側のトランスペアレンシー、データトラストの強化と共に、受容者へのデータとデジタル技術のわかりやすい啓蒙ならびに明快なインセンティブが必要

信頼できる企業には、データを提供してもよい



提供した個人データが、自分にとって、商品・サービスの向上に活用されるのであれば個人データを提供してもよい

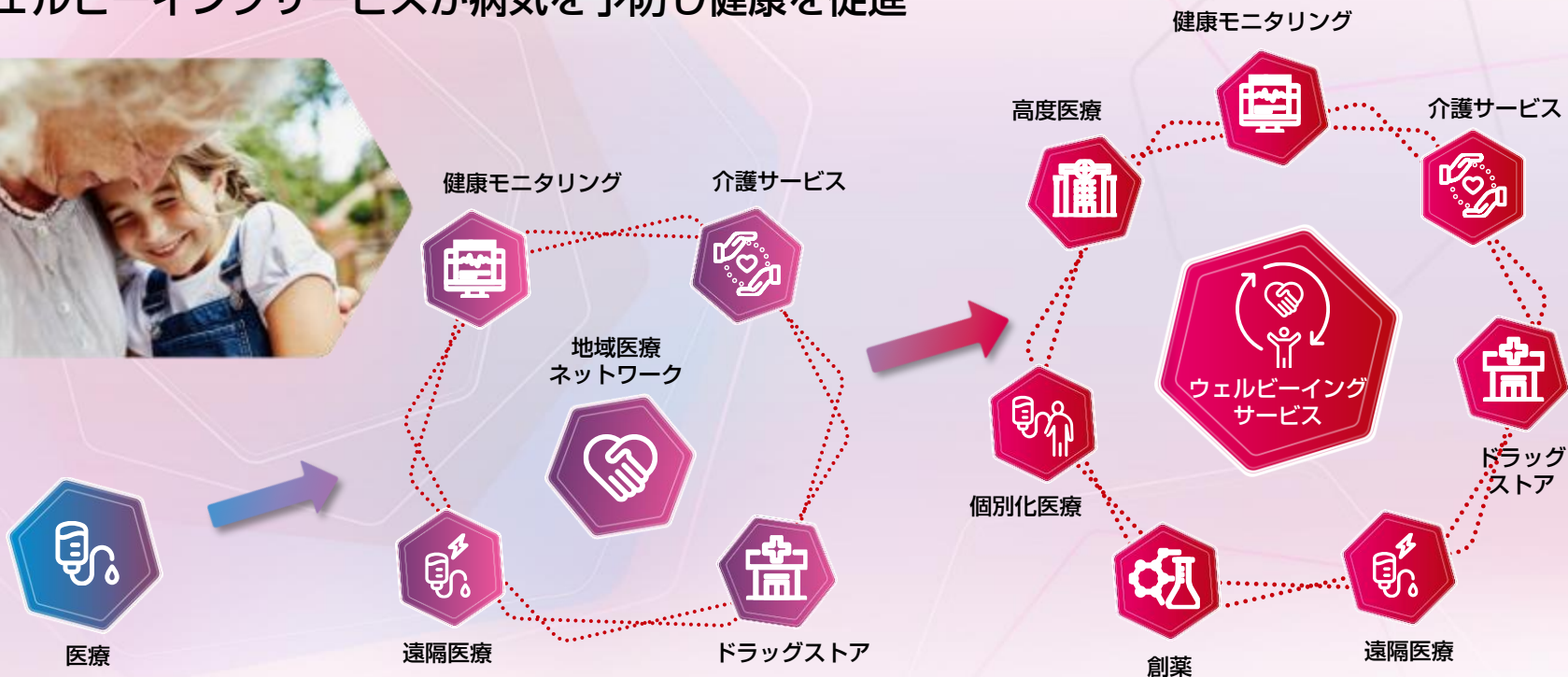




shaping tomorrow with you

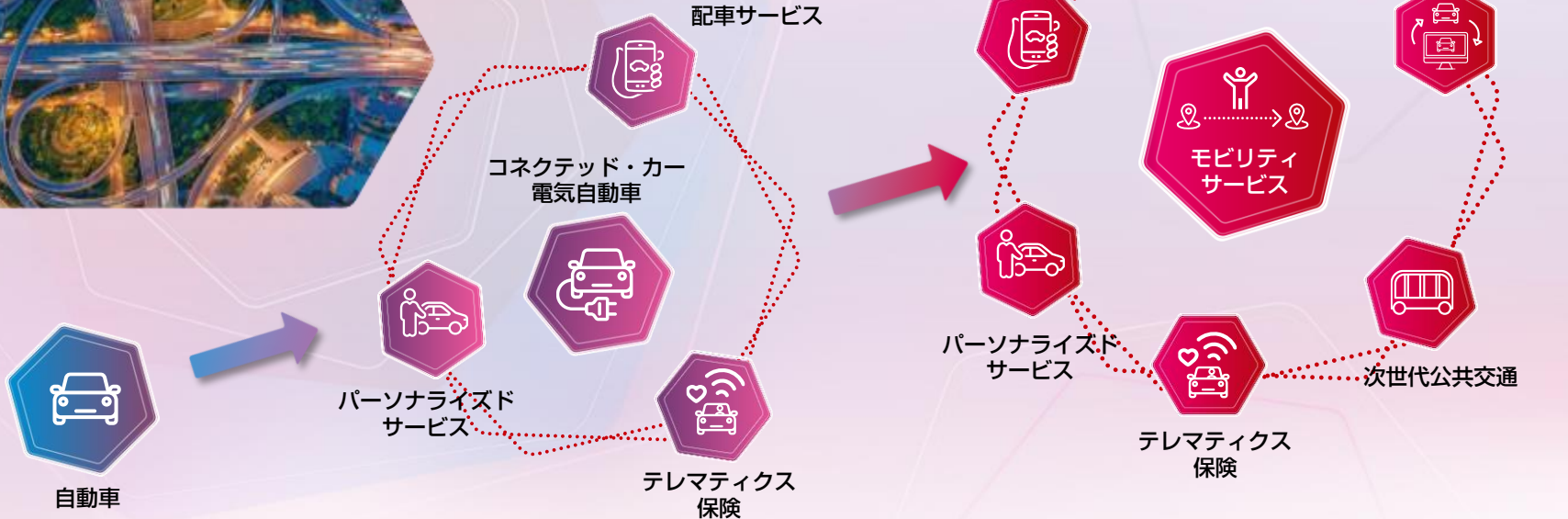
# ウェルビーイングサービス

- 医療は地域医療ネットワークにシフト、さらに人を中心としたウェルビーイングサービスが病気を予防し健康を促進



# モビリティサービス

- 自動車はコネクテッド・カーや電気自動車へシフト、さらにモビリティサービスへ進化



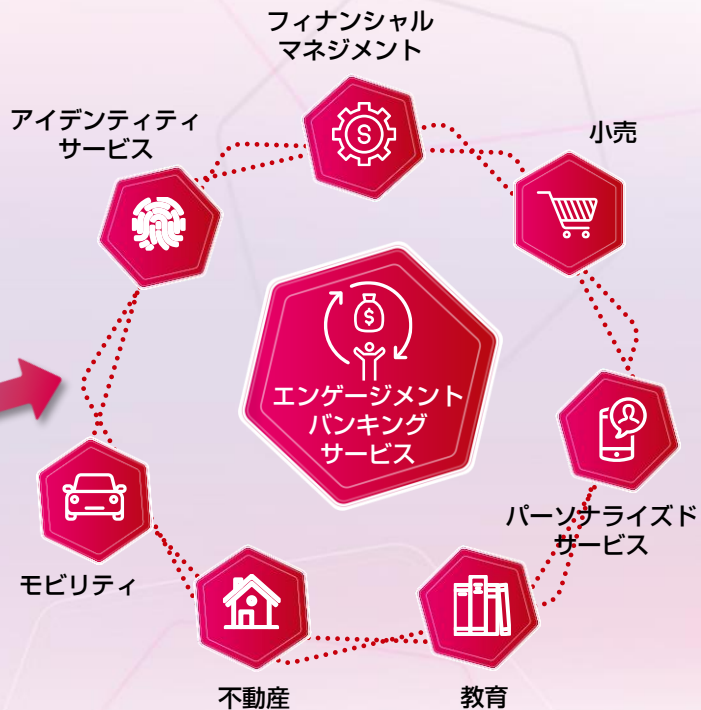


# エンゲージメント・バンキングサービス

- リテール銀行はモバイルバンキングにシフト、さらに銀行サービスが人々の生活シーンに溶け込んでいく



リテール銀行






# 富士通の取り組み (Work Life Shift)




リアルとデジタルでつながる社員が仕事と生活の全体でウェルビーイング（幸せ）を実現することを目指す



**Smart Working**  
最適な働き方の実現



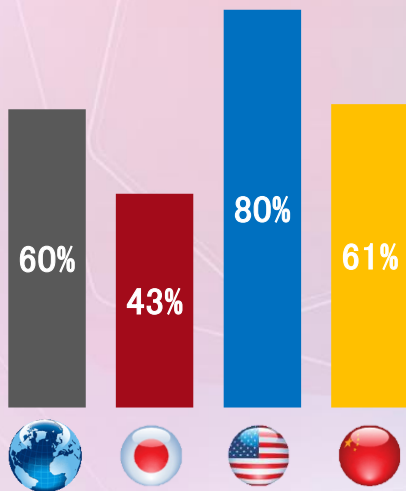
**Borderless Office**  
オフィスのありかたの見直し



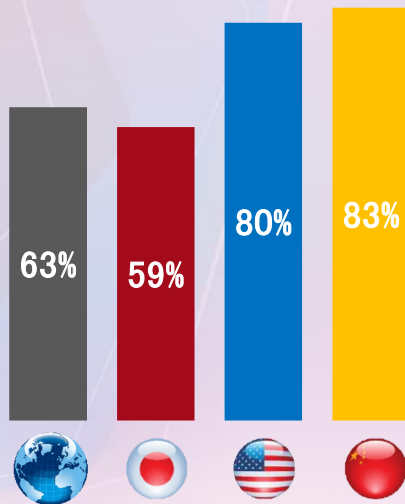
**Culture Change**  
社内カルチャーの変革

# デジタル受容性の課題

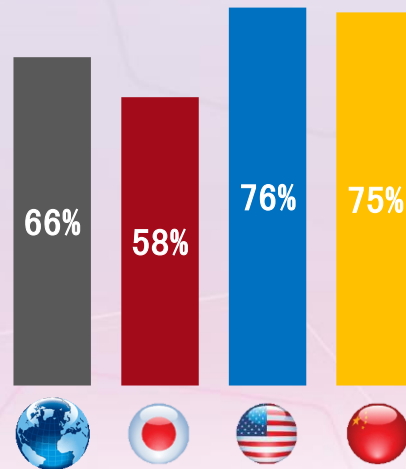
人の判断には、主観や偏見が入るので、AIの判断が公正である



AIの判断が十分な根拠にもとづいていればAIの判断を信頼する



AIの使用に関する倫理規定を公表している企業を信頼する



# デジタル受容性の課題

AIが判断する元となるデータが正しくないか、バイアスがかかっている可能性があるので信頼できない

AIの判断のみでは信頼できない。最終判断は、人がすべきである

